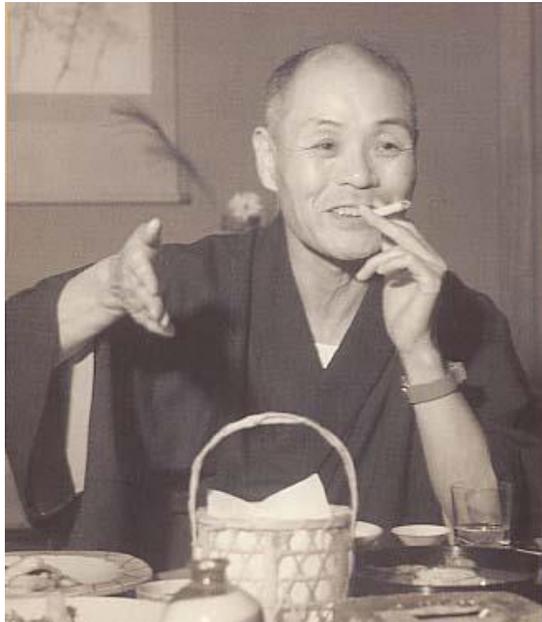


第29回
あかつき賞
受賞作品集



2019年3月
上林暁顕彰会

「あかつき賞」について

黒潮町の生んだ作家、上林暁先生の業績を顕彰するとともに、本町の教育文化の発展を願って、平成元年（一九八九）「上林暁顕彰会」を結成し、様々な活動を行っています。

その事業の一環として平成二年度より、町内小中学生の作文を対象に「あかつき賞」を授与しています。

優秀作品は、各学校の先生方のご協力を得て厳選された応募作品の中から、上林暁顕彰会の選考委員が各学年一点ずつ選びました。

本賞が町民の間に上林先生への関心を高めるとともに、地域の教育文化の振興に大いに役立つことを確信し、期待しています。

第二十九回「あかつき賞」受賞者名

小学六年	小学五年	小学四年	小学三年	小学二年	小学一年	学年
森田真凛	川村米音	新田悠晴	金平理人	松本一花	清水健太	受賞者名
伊与喜小学校	田ノ口小学校	三浦小学校	南郷小学校	田ノ口小学校	三浦小学校	学校名
楽しかった最後の収穫祭	児童会最大のピンチ	お別れの時	うけついでいく子おどり	大すきな「おんぼうばた」	田のうらのおまつり	題名
畑中長喜	平林美和子	竹内里香	下元裕子	大野桂子	不破由美子	指導教員

目次

田のうらのおまつり

清水 しみず

健太 けんた

1

大すきな「おんぼうばた」

松本 まつもと

一花 いちか

4

うけついでいく子おどり

金平 かねひら

理人 りひと

8

お別れの時

新田 にった

悠晴 ゆうせい

12

児童会最大のピンチ

川村 かわむら

米音 よね

17

楽しかった最後の収穫祭

森田 もりた

真凜 まりん

22

田のうらのおまつり

三浦小学校 一年 清水 健太

きのうは、田のうらのおまつりでした。

一じごろ、あるいてしゅうかいじよにいきました。はじめに、まあくんのおばあちゃんが、きものをきせてくれました。くろくて、りゆうがついていて、かっこいいきものだなおもいました。

そして、けししょうをしました。ぼくは、けししょうをすると、ひふがよわくてかぶれるので、さいごにしてもらいました。けししょうは、はなが白で、目のよこは赤むらさきでした。まつげは青でした。口はピンクでした。すごいなおもいました。

じんじゃにいったら、まつりみたいでした。ゆめとくんもきていました。てんぐが、ゆめとくんに、



「あくしゅしよう。」

といいました。ゆめとくんが、おかあさんにかくれていました。

「であい」がはじまりました。「であい」は、たいこが六人で、おどる人が四人で「花とり」をやります。ぼくは、たいこです。はじまるまえに、ちよつときんちようしていました。ところがどこかにとんでいていました。こころのひとが、

「おい。」

といていたのに、こころは、

「ぼわっ。」

としていました。気がついたら、ぜんぜんおわっていないかったです。バチのモシヤモシヤが一こおちました。ママが、

「とらなくていいよ。」

といいました。そのままたたきました。「であい」は、すぐおわりました。そのあと、みんなで「花とり」をおどりました。ぼくはもうきんちよう



しませんでした。みんながおって、たのしかったです。たいこは、バチがおもくて、すごくひびきました。

おまつりがおわって、ジュースをもらいました。

おまつりでたいこをたたくのに、れんしゅうが二十かいぐらいありました。れんしゅうはたいへんだったけど、たいこをたたけてよかったです。

大すきな「おんぼうばた」

田ノ口小学校 二年 松本 一花

わたしがすんでいる「おんぼうばた」は、しぜんがいつぱい、しずかな
いいところですよ。

家のちかくの川には、大きなこいもいて、気もちよさそうに、ゆったり
とおよいでいます。しゅ色や黒っぽい色をしたこいが、なかよくれつにな
っておよいでいるのを見るのがすきです。その川のそばには、うすむらさ
きの野ぎくもさいていて、とてもきれいです。ぴかぴか光るじゅじゅ玉な
どもあります。

夏には、お父さんといっしょに、川エビをとったり、魚つりをすること
があります。川エビは、とう明で体の中がすけて見えます。小さくてかわ
いいです。



十月は、「おんぼう」の秋まつりがありました。ドンドンドンと、たいこの音が聞こえて来ると、何だかわくわくしてきます。じんじゃから、おみこしがおりて来ました。わたしのお父さんも、地いきの人たちといっしよに、おみこしをかつぎました。みんなあせびっしよりになって、ワツシヨイ、ワツシヨイとかついできました。とちゅう、おみこしがよこにかたむいて大へんでしたが、お父さんたちは、かけ声をかけて、もとにもどすことができました。お父さんたちは、わらっていました。わたしもおもわずわらっていました。

おみこしが道を通っていくと、家の中から、おばあちゃんたちやおじいちゃんたちが出て来て、おみこしの前で、おまいりをしていました。あまり遠くまで歩けないお年よりのみなさんも、おみこしを見て、え顔いっぱいでした。わたしは、友だちや先生といっしよに、おみこしの後について歩きました。

いつもしずかな「おんぼうばた」が、この日はとてもにぎやかでした。



金色にかがやくおみこしのてっぺんにいる「ほうおう」も何だか、自まんしているように、わたしを見ていました。

十一月は、さんぎようさいもありました。わたしは、今年も、お母さんのお手つだいをすることになりました。朝早くおきて「とんじる」のじゅんびをしたり、おじいちゃん作ったお米や野さいを売ったりしました。地区のおばちゃんたちが、

「お手つだいして、えらいね。」

とほめてくれました。おじいちゃんのおいしいお米も、ぜんぶ売れてうれしかったです。売り場の前には、コスモス畑があつて、とてもきれいでした。そこでしゃしんをとる人もたくさんいました。

今、「おんぼうばた」には、わたしを入れて小学生が四人しかいません。お父さんが小さいころは、どうきゆう生が十八人もいたそうです。わたしは、これいじよう、子どもの数がへつてほしくないなと思つています。



わたしは、「おんぼうばた」が大すきなので、大人になっても、ここで
くらしたいと考えています。

しょうらい、わたしにも子どもができたら、きれいなしぜんの中で、い
つしよにあそんだり、おまつりや、地いきのイベントなどにさんかしたい
です。そして、地いきの人たちや家ぞくのみんなとなかよく、楽しくすご
したいと思います。

うけついでいく子おどり

南郷小学校 三年 金平 理人

十一月のはじめになると子おどりのれん習が始まります。子おどりというのは、おまつりのときに子どもが大きなうちわをもっておどることです。大きなうちわとは、たてが一メートル、横が六十センチメートルくらいあるうちわです。

れん習がはじまった、はじめての日、ぼくたちはしゅう会しよにあつまりました。ぼくを入れて四人です。男の子ばかりです。二人は小だっこ、あとの二人はうちわを持ちます。ぼくは三年生なのでうちわを持ちました。

いよいよれん習のはじまりです。大人が歌う歌に合わせてうちわを頭で一周まわします。



「ドンドンドン、ドンドドドン。」

たいこもいっしょに合わせます。れん習をしていてむずかしいのが、うちわを持っている人どうしが動きをまちがえてぶつかることがあります。動きをおぼえることが大切です。

ぼくは二回目なのでおぼえているけど、はじめての人におしえなければいけないのでむずかしいです。

れん習は、夕方六時から八時ぐらいまでつづきます。それを五日間つづけます。はじめはぶつかっていたうちわの人も五日間れん習すれば上手になります。あせもでます。大人といっしょにもくもくとれん習をします。五日目のれん習のさいごの日には、バッチリおぼえて、大人の人からもほめてもらいました。

とうとうお祭りの日がやってきました。朝早く広場の近くにあるしゅう会所にあつまり、けししょうをしてもらいます。顔を白くぬり、目のまわりも黒くかき、口べにをぬります。まるでかぶきの人のようになります。自



分でもびつくりします。けしよのあとは着物をきて、たびをはいて、手ぶくろみみたいなをつけてでき上がりです。みんなのしたくができれば、広場へ行きます。

広場では、しきものがしかれていてその上でおどります。みんなが見ているのでとてもきんちようしました。持っているうちわが重く感じました。

「ドンドンドン、ドンドンドン。」

大人の歌に合わせて、うちわをたたきます。れん習したとおりにうまくできました。でもれん習でもぶつかったように本番でも同じことがあって大へんでした。ぼくが上級生なのでなんとかうまくかわしてぶつからないようにしました。うまくかわせれたときはほっとしました。れん習していたよかったなあと思いました。

たいこの音とうちわをたたく音がいつしよになり、どんどんおどりはもり上がっていききました。ぼくもさいごが近づくと力が入ってうちわを大き



くまわします。三十回ぐらいうちわをまわすと、うちわを持ったまま体をおしておじぎをして終わります。さいごのおじぎをしたとき、これでやっと終わったと思いました。たくさんの人が見ているのできんちょうじていたし、おわったときには手がしびれてじりじりしていました。

この子おどりはだいぶ長くつづいていると聞きました。地いきの人たちが大事にしているお祭りだからだと思えます。

今まで小だいこ二年、うちわを二年してきたので、つぎは大だいこにちようせんです。今年は四年生のゆうたくんが大だいこをしました。つぎはぼくの番だと思って見てきました。来年は大だいこをしつかりとがんばりたいです。

地いきにつたわる伝とうをぼくらがうけついでいきたいです。

お別れの時

三浦小学校 四年 新田 悠晴

ぼくは、お母さんの誕生日の一月五日にデリカD5という車を買に行きました。まず、徳島に車を取りに行き、それから岡山に買い物に行くという予定です。

ぼくは、今乗っているスパイクという車の中をかたづけました。

「これでお別れか・・・。」

とつぶやくと、お母さんが

「そりゃな。」

と言ったので、

「がんばってくれたね。」

と、ぼくは言いました。



スパイクは、二十二万キロも走っています。ぼくが生まれる前に、お父さんとお母さんが買った車です。そのころはまだ大阪にいて、ぼくは一歳になる前にこっちにきました。

お姉ちゃんが山にドライブに行くのが好きで、お父さんと、お母さんの仕事の段取りがいたらみんなでよく出かけました。後ろのシートをたおして布団をしいて、お父さんとお母さんの間で寝ました。本当は前の席で寝たかったけど、ぼくが一番小さかったので、お姉ちゃんが前でした。ちよつときゆうくつだったけどいい思い出です。

「地震が来るなら、今来たらいいね。家族みんながそろっているからね。」

と、みんなで話していました。

ポールマツカートニーのコンサートを観に東京へ行った時もワクワクしました。長いキョリと時間だったので、ねむくなったらねれるように布団をしいてもらっていました。楽しくてたまりませんでした。



そして、学校へも毎日お母さんに送ってもらった車です。
ぼくは、家族で徳島へ向かいながら、

「このスパイク、こわれかけた時もあったけど、よくがんばったね。」
と言いました。（もうお別れか。）と思ったら涙が出て来ます。

「スパイクにはいろんな思い出があるね。ビートルズも聴きに行ったし、山に家族で散歩に行ったり、いっぱいしたね。」

と言うと、お父さんが、

「ほんとによくがんばってくれたで。」

と言いました。ぼくもそう思います。

そして、やっと徳島に着きました。お母さんが

「あの車、真ん中にドーンとあるかな。」

と言うと、お父さんが

「そらああるろう。」

と言いました。三菱のお店に着くと、ワクワクしながら入って行きます



た。デリカはお父さんの言った通り、お店の真ん中あたりに置いてありました。ぼくが、

「やっぱり、かっこいいね。」

と言うと、お父さんは、

「当たり前だろ。」

と、とってもうれしそうでした。

そして、デリカと写真撮影をすることになりました。お母さんは、花束を持って車の横に行きました。ぼくは、テレビでよく見る大きな鍵を持ちました。お父さんは、ぼくに何度も

「車に当てんなよ。」

と言うので、その度に

「わかった、わかった。」

と言いました。（よほどうれしんだろうな。）と思いました。

写真撮影が終わって、ついにスパイクとのお別れの時が来てしまいま



した。ぼくはちよつと泣いてしまいました。お母さんも泣いていました。

新しいデリカに乗って見たら新車のおいがしました。お別れはさみしいけど、買った車もいいです。車を買ってよかったです。デリカが来て、一番初めの日はお父さんの運転で登校しました。お母さんは、たまにスパイクを当てていたので、なれるまで、五年くらいは乗られんことになっていきます。早く乗れるようになったらいいです。

今でもたまにスパイクを思い出します。どこにおるのかな、よくがんばってくれたね、やっぱり、さみしいな。

児童会最大のピンチ

田ノ口小学校 五年 川村 米音

音楽室に行くとするでたくさんの方が集まっていました。年に一度、児童会が地域の人たちの会で今の田ノ口小学校について発表する日だからです。今年から書記になった私にとっては初めての会で、入口から中を見たいしゅん間からきん張し始めていました。たくさん発表することがある中、じゃんけんで勝ちとった、児童会の今からのとりくみについて発表します。

児童会が一列になって入り、歩きながら集まっている方たちを一人一人見て行きました。一人目、二人目、三人目、四人目!?!じいちゃん!体がかたまるかと思いました。今日来るなんて聞いてない。きん張と同じくらいのプレッシャーを感じました。

席について、まずは自己紹介からでした。速くならずには言えるだろうかと



考えているうちに、千夏ちゃんが終わり、じいちゃんが私を見ています。頭で練習せずに立ち、言いました。するとじいちゃんの目線が次の、日和ちゃんへ移りました。そのころから、体がふるえて、頭がまっ白になってボーとしていました。これじゃあ、落ち着いて発表はできないと思い、言いたいことはちゃんと伝わるよう、紙を見て何度も、読み返しました。

次は、今の田ノ口小学校について児童会が一人ずつ発表しました。会長、副会長、書記と順番にやっています。じいちゃんが、みんなのをうなずきながら聞いています。うなずいてもらえんかつたらどうしよう。じいちゃん、発表の仕方にきびしいので何度か注意されたこともあります。私はきん張するとまちがったり、わけのわからないことを言ったりします。速いな、と思っただろうしもうもなくなってしまう、よけいきん張してしまいました。けれど、無事発表をやり切りました。反省もあるけど、プレッシャーときん張のせめぎ合いの中、よくがんばったとほめました。そして、地域の人たちへお願いの発表がありました。私は、学校の裏山



にある防災倉庫について言いました。その倉庫の中身を、緑野の倉庫に移したいということは、前から先生と話し合っていたので少しは自信を持って発表しました。あとで緑野の区長さんが、色々言っていたけど、ほとんど覚えていません。発表し終わってもなお、きん張っていたからです。一体なぜなのか、私にも分かりません。

そして、児童会長が発表した内容の中で「前よりも学校が明るくなった。」ということにたいして、森岡区長さんから、児童会に

「明るくなったと言ってますけど、それはどんな取り組みをして、どんな風に明るくなったのですか。」

と、質問がありました。ギクツとなりました。教頭先生が「何かありますか？」

と、みんなに聞いたけど、うつむいて、だれ一人発表しようとはしませんでした。私は、分かる、その気持ち。みんな多分ないことはないと思うけど。さすがに自分からは。言いにくいと考えていました。平林先生が小



さく手をふって「立て」と合図を送っていたけど、自分からは、言えませんでした。だから私は、ずっと心の中で「教頭先生、指名して！」と思っていました。それは、自分から言いにくいというのもあったけど、時間がたってしまったって気まづくなっているというのもありました。「あーもうどうしよう」というのを、何回思ったか分かりません。でも、教頭先生は指名をしてくれず、発表できませんでした。フォローはしてもらったけど、部屋を出るときも、心にもやもやが残っていました。

帰り、送ってもらおう先生の車で、あー無念・・・と思っていました。考えてみると、児童会や体育委員が計画したドッジボールでみんながゆずり合っ
てなげていることや拡大あいさつ運動のことなどたくさん発表することが
あったなと思いました。くやしいです。

今思うと指名を待つのではなく、自分から何でもいいから思ったことを
発表できるようにしようとして心に決めました。たった二十分のことだったけ
ど、今までにないくらいたくさんのことを考えました。



普段の授業でも、無理と思うことでも無理だと決めないで発表しようと、手を挙げています。

来年、リベンジしたいです。じいちゃんの前でも堂々と言いたいです。

楽しかった最後の収穫祭

伊与喜小学校 六年 森田 真凜

十一月に、みんなで育ててきたもち米を使って収穫祭を行いました。今年もおもちとおはぎを作ります。私は六年なので最後の収穫祭です。

開会式が終わって、私は最初にもちまるめに行きました。もちつきではおいつかないので、機械を使ってもちをまるめていきました。地域のおばさんがちぎってくれたのを丸めていたら、とてもあつくてすぐには手に持つことができずに、何度も台の上で落としたりしました。熱湯をさわっているような感じがしました。何度も何度も熱つ熱つと声が出ました。一つ丸めるのに、一分くらいかかりました。私は、

「もちが熱い。」



と独り言も言いながら丸めていきました。でも一番熱いのは、もちを丸める前のもちをちぎる人だと思いました。もちをちぎる時に、

「熱いねえ。」

と言っていました。熱くてもがまんして素早く同じ大きさにちぎってくれました。もちをちぎってくれている地域のおばさんは、慣れているんだなあとびっくりしました。しばらくもちを丸めていると、もちつきの順番が私の班になったので、もちをつきに外に出ました。

同じ班の人ともちをついている時、ペチペチと音が聞こえました。その中で、上手にもちをつけない時がありました。きねが少し重かったので、うまくもちにあたらずに、うすにゴンって当たったりしました。手にひびいてくるので手がいたかったです。でも、何回もちをついていたら慣れてきて、失敗する回数も、少なくなってきました。上手につけるようになって、ペチペチといい音が鳴るだけになって気持ちよくなってきました。もちつきは、力を使うので、かたがつかれてきますが、私はだんだんとも



ちつきが楽しくなってきました。

もちつきが終わって、もち丸めを少しすると、おはぎづくりに行きました。手に水をつけて、ご飯を手にのせた時、すごく熱かったです。手のひら全体に、ご飯がのっているので、もち丸めより熱く感じました。友達も熱いと思っているだろうな、と思いました。ご飯を丸める係、きなこをつける係に分かれました。私はご飯を丸める係でした。

「熱っ、熱っ、熱すぎる。」

と思わず声が出てしまいました。本当に熱いので、水に手を何回もつけながらにぎりました。数は分からないけど、何百個もみんなで作りました。手がまっ赤になってじんじんしていました。

昼食になって、地区ごとに分かれて食べました。早く食べてみたい、と思いつながら待っていました。みんなが食べはじめたので私も食べました。もちが気になったので、もちから食べました。すごくやわらかくてもちもちしておいしかったです。私は家でもちを作ったことはありませんが、学校



で作った方が、おいしく感じました。おはぎは、ねばりがあつてあまくてとてもおいしかったです。私はふだんきなこを使った食べ物は食べませんが、おはぎには、きなこが一番合うんじゃないかなと思いました。おはぎは家で作ったことがないので今度作ろうと思いました。それは、おはぎのおいしさにおどろいたからです。

閉会式が終わって、地域の人におはぎを配りに行きました。亜美ちゃんといっしょに先生の車に乗って伊与喜地区の人たちに配りに行きました。

「伊与喜小の収穫祭で作ったおはぎです。食べて下さい。」
と言ってわたしました。もらった人はみんな

「ありがとう。」

ととても喜んで言うてくれたので、プレゼントして良かったなと思います。家に帰った時、今日の収穫祭は楽しかったな、と思いました。最後の収穫祭だったけど、楽しい思い出ができたので良かったです。